

YNU

YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY

2021 / 2022

横浜国立大学 高校生向け大学案内

Prospectus for High School Students

Why Study at YNU?

An aerial photograph of a city, likely Yokohama, Japan. In the foreground, a university campus is visible, featuring several large, modern buildings and green spaces. The middle ground shows a dense urban area with many smaller buildings and residential areas. In the background, a large body of water (the harbor) is visible, with several bridges spanning across it. The sky is blue with some light clouds.

Why Study at YNU?

実践性・先進性・開放性・国際性、4つの理念はYNUの教育・研究の原点です。

47都道府県すべてから集まる9,000人の日本人学生のみなさん、そして世界中約80か国から集まる1,000人の留学生のみなさんの多様性が、無限の可能性とともにこの理念を支えています。

文明開化発祥の地であり、グローバル企業が集まる国際都市横浜、みなとみらい地区や中華街をはじめとする観光都市横浜。YNUはこの大都市横浜の中にありながら、緑豊かな落ち着いた一つのキャンパスで、人文・社会系学部と理工系学部が融合した教育を行い、グローバルとローカルな課題に対応できる人材を育成します。

YNUは、これからもみなさんと一緒に多様な学生が生き生きと学ぶことができる教育拠点を目指すとともに、世界基準の教育・研究の成果を社会に発信し、より良い未来を創造していきます。

YNUで学ぶ 5つの理由

- ① 先進的な研究 04
 - ② 実践的な教育 08
 - ③ 理想的な立地と環境 16
 - ④ 充実した施設と学生支援 20
 - ⑤ 費用と進路 24
- お問い合わせ 29

数字で見るYNU

創設	学部	大学院	学部生
1874	5	6	7,500
Founded in	Colleges	Graduate Schools	Undergraduate Students
大学院生	留学生	常勤教員	キャンパス
2,500	1,000	600	1
Graduate Students	International Students	Full-time Faculty	Campus
海外協定校	県外出身者	出身国・地域	学部就職率
140	70%	80	95%
Partner Institutions	Students from outside of Kanagawa	Country / Region	Employment Rate

1

先進的な研究



研究の強み

YNUでは、世界と日本の人々の福祉と社会の持続的発展に貢献する「実践的学術の国際拠点」として「知」を創造・実践しています。個々の研究だけでなく、先端科学高等研究院では8のユニットを形成するとともに、研究推進機構が24の研究プロジェクトを「YNU研究拠点」として認定し、学内および国内外の他機関の研究者との共同研究を促進しています。また、海外の140以上の大学と学術交流協定を締結するとともに、毎年、海外の大学から約300人の研究者を受け入れています。

1

強い分野

YNUは、以下の分野において、科学研究費助成事業^{※1}の2018-2020年度の新規採択累計数^{※2}が国内でトップ10に入っています。

分 野	国内順位	新規採択累計数	累計配分額（単位：千円）
日本語教育関連	6	5	29,380
経済統計関連	3	4	16,120
経済史関連	7	3	10,010
経営学関連	9	12	99,450
数学基礎関連	1	3	17,420
材料力学および機械材料関連	9	4	43,810
構造工学および地震工学関連	7	3	26,000
航空宇宙工学関連	8	4	30,420
船舶海洋工学関連	8	7	78,260
安全工学関連	2	5	42,900
材料加工および組織制御関連	5	6	53,040
光工学および光子科学関連	5	6	79,560

※1 「科学研究費助成事業」とは人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。

※2 ここでは、基盤研究（B）、基盤研究（C）および若手研究において、新規採択累計数が3件以上の分野に限定。

2

卓越した研究

YNUでは、以下の分野・プログラムが、2016-2020年度に科学研究助成事業の「基盤研究（S）」[※]に採択されています。

研究分野・領域	氏 名	採択時の所属・職名	プログラム名・研究内容等
ナノマイクロ科学関連	武田 淳	工学研究院・教授	位相制御近接場によるハイブリッド極限時空間分光の開拓
ナノマイクロ科学関連	小坂 英男	工学研究院・教授	ダイヤモンド量子ストレージにおける万能量子メディア変換技術の研究
電気電子工学関連	竹村 泰司	工学研究院・教授	磁性ナノ粒子のダイナミクス解明が拓く革新的診断治療技術
電気電子工学関連	吉川 信行	工学研究院・教授	可逆量子磁束回路を用いた熱力学的限界を超える超低エネルギー集積回路技術の創成
電気電子工学関連	河村 篤男	工学研究院・教授	効率99.9%級のエネルギー変換が拓く持続的発展可能グリーン社会の実現
応用物理工学関連	馬場 俊彦	工学研究院・教授	イオン感応性を原理とする超高感度ナノレーザバイオセンサ
ナノマイクロ科学関連	小坂 英男	工学研究院・教授	ダイヤモンドナノ量子システムにおける量子メディア変換技術の研究

※「基盤研究（S）」とは科学研究費助成事業の中心となる研究種目である基盤研究の中で、「安定的な研究の実施に必要な研究期間」と「研究遂行に必要な十分の研究費の確保」により、これまでの研究成果を踏まえて、さらに独創的・先駆的な研究を格段に発展させるために設けられている研究種目。原則5年間、1課題につき5,000万円以上2億円程度まで支給される大型の研究費。例年、日本全国で90件程しか新規採択されていない。

3

世界にインパクトを与える論文

Web of Science^{※1}によると、2016-2020年度に発表されたYNUの論文は、特に以下の分野において世界中で引用されています。

分 野	YNU論文数	CNCI ^{※2}	被引用数	被引用数 世界トップ1%論文	被引用数 世界トップ10%論文
天文学・宇宙物理学	77	1.68	711	2.60%	14.29%
光学	158	1.61	1045	3.16%	13.92%
機器・計装	74	1.60	333	1.35%	5.41%
物理学・粒子・界	71	1.59	651	2.82%	8.45%
物理学総合	76	1.48	752	2.63%	13.16%
生態学	77	1.32	753	2.60%	14.29%
計算機科学、理論・方法	72	1.16	213	1.39%	9.72%
計算機科学、人工知能	54	1.13	175	1.85%	9.26%
環境科学	121	0.96	992	0.83%	8.26%

※1 Web of Scienceとは、世界を代表する学術文献データベースのひとつ。1900年にまで遡る世界中の21,000誌（2019年11月現在）を超える影響力の大きい学術雑誌や重要刊行物を対象に、分野を横断した検索を実行して引用文献パターンを分析することができる。

※2 CNCIとはCategory Normalized Citation Impactの略称。CNCIのポイントが1以上の分野は、世界水準以上であると言われている。

① 先進的な研究

注目の 国際プレスリリース

国際的な科学ニュースサイトEurekAlert!において、2018-2020年度に本学から発信した国際プレスリリースの中から、注目の6本のニュースをピックアップして紹介します。この他のニュースについても、大学のウェブサイトの「国際プレスリリース」で詳細を確認することができます。

 www.ripo.ynu.ac.jp/about/ynu_research/haishin/



先端科学高等研究院 (IAS)

本学の強みであるリスク共生学の研究を中心に、安心・安全で持続可能な社会を実現するための世界的研究拠点を形成するため、2014年10月に設置されました。

 ias.ynu.ac.jp

「YNU研究拠点」、「研究者総覧」、競争的研究資金獲得実績など、YNUの研究に関する詳細は「YNUの研究力」をご覧ください。

 www.ripo.ynu.ac.jp/topics/YNUResearch.html

新生児の経皮ビリルビン値及びバイタルサインの経時的マルチモニタリングをIoT技術で実現

工学研究院の太田裕貴准教授、稲森剛大学院生らの研究グループは、横浜市立大学と共同で、新生児医療に向けた経皮ビリルビン値・SpO₂・脈拍同時計測ウェアラブルデバイスを実証しました。シリコンゴムを主材とした材料を新生児とデバイスのインターフェースに用いることで高密度性が実現され、微細加工を用いて光学設計を最適化することで経皮ビリルビン値・SpO₂・脈拍の三つのバイタルを額から経時計測できるスマートデバイスを実証しました。さらに光療法中の経皮ビリルビン値の経時計測も可能であることも臨床試験で確認しました。その他のバイタルサインも同時に検出できるようなデバイスに発展させることで新生児医療の高度・高効率化及び在宅医療へのハードウェア技術としての展開が期待できます。(論文は2021年3月3日に*Science Advances*にオンライン掲載)



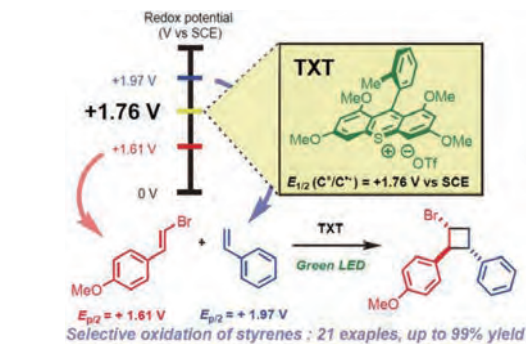
超伝導回路で省電力マイクロプロセッサの動作を実証

先端科学高等研究院のChristopher Ayala准教授と吉川信行教授らの研究グループは、超伝導回路を用いた省電力マイクロプロセッサの4.2Kでの動作実証に世界で初めて成功しました。本プロセッサは、断熱法と呼ばれる回路技術を用いて超伝導回路の消費電力を極限的に低減しており、現在の半導体集積回路技術に対して5桁以上(冷却に必要な電力を見込んでも2桁以上)の低電力化が可能となります。高性能コンピュータや量子コンピュータの制御回路への応用が期待されます。(論文は2020年12月15日に*IEEE Journal of Solid-State Circuits*にオンライン掲載)



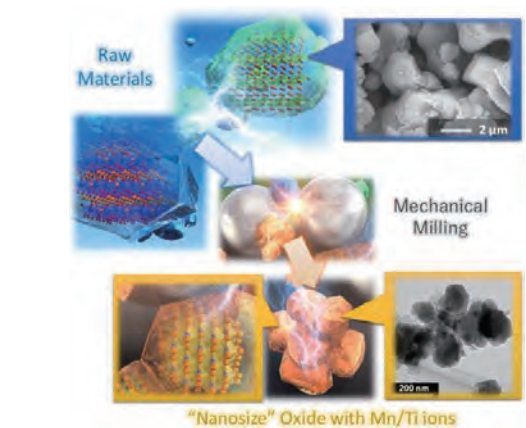
二種類のスチレン化合物の酸化電位の差を巧みに利用した光環化付加反応

環境情報研究院の本田 清教授と星野 雄二郎特別研究教員らの研究グループは、独自に開発した有機フォトレドックス触媒を活用して緑色LED照射下二種類の異なるスチレン化合物を効率的に環化反応させることに成功し、多置換シクロブタン環の高選択的合成法の確立を達成しました。今回それぞれのスチレンの酸化電位とフォトレドックス触媒の励起還元電位を巧みに調整することにより、これまで困難とされてきたスチレンの可視光照射下クロス[2+2]環化付加反応の開発に成功しました。この穏和な反応条件によりこれまでほとんど合成例の無いハロシクロブタンの合成も可能となり、有機合成上有望な反応として期待されます。(論文は2020年6月11日に*Organic Letters*にオンライン掲載)



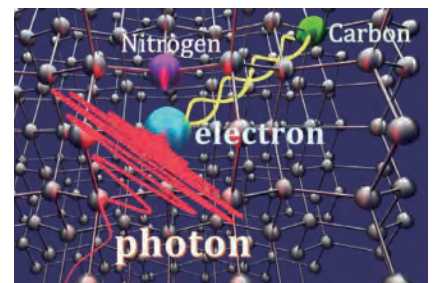
高エネルギー密度蓄電池材料の発見

工学研究院の藪内直明教授らの研究グループは、マンガンとチタンから構成されたナノサイズ試料を合成することで、大きな放電容量と高いエネルギー密度を実現する新しい電池材料の開発に成功しました。既存の電気自動車で用いられているコバルトやニッケルを利用しない低価格・高性能なリチウムイオン蓄電池の実現は、電気自動車の普及にも繋がると期待できます。(論文は2020年3月25日に*Materials Today*にオンライン掲載)



世界初、光子からダイヤモンド中の炭素への量子テレポーテーション転写に成功

量子インターネットを実現する量子中継の大容量化に道工学研究院の小坂英男教授らの研究グループは、ダイヤモンド中の炭素同位体を量子メモリとして用い、量子テレポーテーションの原理を応用して、光子の量子状態を維持したまま情報漏えいによる盗聴の可能性なく量子メモリに転写することに世界で初めて成功しました。研究グループは、ダイヤモンド中の窒素空孔中心(NV中心)の電子と近傍の炭素同位体の核子を量子もつれ状態にし、光子の吸収による核子への伝令信号付き量子テレポーテーション転写を実現しました。これにより多数の量子メモリに光子の量子状態を個別に転写および一時保存でき、量子中継の処理能力を格段に向上できます。本成果は、量子暗号通信を量子中継でネットワーク化した量子インターネットにより、量子コンピューター、量子シミュレーター、量子センサーなどの量子接続を可能とし、超高速かつ秘密性を保つ量子計算や高精度な量子計測などへの道を拓くと期待されます。(論文は2019年6月28日 *Communications Physics*にオンライン掲載)



毛髪再生医療を目指した 毛包原基ヘアビーズの開発

バイオプリンタを用い 毛包原基の高効率な大量調製を可能に

工学研究院の福田淳二教授らの研究グループは、毛髪再生のための移植組織として、コラーゲンゲルビーズに間葉系細胞を包埋すると自己収縮する反応を利用して毛包原基を作製する方法を開発しました。ヘアビーズと名付けられた新規開発ゲルビーズを使うことで、従来よりも発毛効率の良い移植組織を大量作製することができます。(論文は2019年5月9日 *Biomaterials*にオンライン掲載)



2

実践的な教育

5つの学部

YNUでは5つの学部において、問題の本質を見極め、時代の変化に対応し得る柔軟性と創造的な課題発見解決能力を身につけ、社会の中核となって活躍する人材の育成するため、実学を重視した教育を行っています。

YNUの経済学部・経営学部で
新しい学びが始まります。

 www.cecba.ynu.ac.jp

GBEEP：Global Business and Economics 教育プログラム

DSEP-Econ. (経済学部DSEP)：Data Science 教育プログラム

DSEP-Biz. (経営学部DSEP)：Data Science 教育プログラム

LBEEP：Lawcal Business Economics 教育プログラム

※Lawcalは、地域 (local) と法 (law) を組み合わせた造語です。



教育学部 Education	経済学部 Economics	経営学部 Business Administration	理工学部 Engineering Science	都市科学部 Urban Sciences
小学校教員養成所の設置 (1874年) 以来、教育現場の未来を支えるべく、多角的な視野と洞察力とを兼ね備え、環境の変化に柔軟に対応できる次世代の教員を養成している。附属学校との連携を強化しており、学生は1年次から小・中学校に出かけて実践力を磨くことができる。	横浜高等商業学校 (1923年設置) 以来の伝統である理論と実務のバランスのとれた教育と、国際貿易港横浜を背景とした国際色豊かな教育を行う。英語による専門科目を取り入れ、グローバル社会で通用する実践的コミュニケーション能力も育むことで、グローバル化の深化に対応でき、経済社会にイノベーションをもたらす人材を育成している。	東日本の国立大学で唯一の経営学部。グローバルな活動・競争の中でビジネスを位置づけることができる「グローバルビジネス即応力」、ビジネスをめぐる課題を全体最適視点で定義し、ソリューションを提案できる「ビジネス統合分析力」、企業経営の観点から学際的な知を統合し、社会の変革を実行できる「イノベーション力」を持った人材を育成する。	イノベーションを創出する「未来の創造的人材」育成のため、横浜高等工業学校 (1920年設置) より始まった実践的工学教育を深化・発展させ、学生が早期の教育課程で理学・工学両方の素養を身に付けた後に専門教育を受けるカリキュラムを提供している。工学的センスを持った理学系科学者、理学的センスを持った技術者・研究者を育成する。	2017年4月新設の学部。都市科学は、これからの都市はどうあるべきかというテーマに科学的に取り組む学問である。多くの人が住み、働き、多様な活動が育まれ、様々な現象が起こる都市。人類や地球が直面している多くの問題を解く重要な鍵として、これからの都市のあり方を考え、文理にわたる幅広い視点から都市の未来へ挑戦する人々を育成する。
学校教員養成課程 言語・文化・社会系教育コース／自然・生活系教育コース／芸術・身体・発達支援系教育コース	経済学科 GBEEP DSEP-Econ. LBEEP	経営学科 GBEEP DSEP-Biz.	機械・材料・海洋系学科 機械工学EP／材料工学EP／海洋空間のシステムデザインEP 化学・生命系学科 化学EP／化学応用EP／バイオEP 数物・電子情報系学科 数理科学EP／物理工学EP／電子情報システムEP／情報工学EP	都市社会共生学科 建築学科 都市基盤学科 環境リスク共生学科
				

学部教育の特色

貿易と商工業で栄えてきた横浜の歴史と伝統に根差した、実学的色彩の濃い学部構成となっています。

中規模大学ならではの柔軟性とワンキャンパスの機動力を発揮して、高度で実践的な学術を継承し、世界に通用する人材を育成しています。



教育学部

Education

社会の現場での実践を推進する 「学外活動・学外学習」

大学で学んだ知識を社会の現場で実践していく活動を大学の単位として認定しようという制度。小・中・高校の授業や課外活動のサポートや、子どもたちへの講座や交流活動などのボランティア活動を通して、社会的・教育的な実践力を養うのに最適な場となっている。

実践に生かせる専門教育

入学後、さまざまな領域の内容に触れながら専門とする領域を選択し、1年次秋学期以降、少人数の環境で専門分野について学び、高度な専門性を身につけます。

各コースの専門領域

- 言語・文化・社会系教育コース：国語・社会・英語・日本語教育・教育学
- 自然・生活系教育コース：数学・理科・技術・家庭科
- 芸術・身体・発達支援系教育コース：音楽・美術・保健体育・心理学・特別支援教育

教育現場での実践的な経験を重視

1年次から教育実践の場に参加し、学校や児童・生徒の実態を理解すると共に、自分の見出した教育の課題に4年間かけてじっくり向き合う。1年次の「教育実地研究」や2年次の「スクールデー実践」などで学校現場での学習を継続し、3年次に小学校・中学校・特別支援学校の「教育実習」が実施される。4年次の「教職実践演習」は、各教育実習と大学内での授業の体系的総括の機会となっている。



経済学部

Economics

少人数・双方向型教育

1年次の導入教育である数学と外国語はクラスを指定し、基礎演習も少人数・双方向型授業を行う。情報処理演習も少人数化。3年次からのゼミナール（指導教員の専門に興味をもつ学生に対して卒業論文指導を中心に指導を行う）は1学年平均7名で構成されている。



体系的な学びのプログラム

1年次から専門教育について体系的に学べるように、専門基礎科目が用意されている。2年次からは専門基幹科目や専門応用科目（初級レベル）で経済学の基礎をバランス良く学んだうえで、3年次以降は中級レベルとして、5つの専門分野（グローバル経済、現代日本経済、金融貿易分析、経済数量分析、法と経済社会）から自分の主分野、副分野を選択し、各学生が自分の将来を見据えて主体的に学び、高い専門性を身につけていく。

課題プロジェクト演習

一年次の基礎演習と三年次からの演習（ゼミナール）に接続させるための演習科目であり、少人数で、プレゼンテーションやディスカッション、さらにはフィールドワークを重視している。開講当初に学生がそれぞれ自分の目標を設定し、教員と共に中間評価、最終評価を行う（双方向型学習評価システム）。英語で行う演習も、Economic Theory, Applied Economics, International Economic Policy等、多数開講されている。

英語討論会

経済学部では、アジア英語討論会、欧州英語討論会、Global Applied Economics Forumという3種類の「英語討論会」を実施している。英語を駆使し、経済を討論することでグローバルな視点を培うため、海外経験を求める学生のために用意されたプログラム。10日から2週間程度で、海外協定校訪問と現地学生との討論会のほか、現地企業や国際機関の視察も行う。



経営学部

Business Administration

充実した体験型授業

経営学分野でのゲーミング・シミュレーションの一つである「ビジネスゲーム」では、コンピュータ上に構築された仮想的マーケットの中で、複数の学生が企業の経営者として商品の生産、仕入れ、販売を行い競い合うことで、経営学関連の諸科目（会計、マーケティング、生産、流通、戦略など）の理解を深め、学習に対するモチベーションを高めることに絶大な効果を発揮している。さらに、「マイプロジェクトランチャー」では、学生自らプロジェクトを作成、プレゼンを行い、プロジェクト実践能力を磨いている。

会計CAI (Computer-Aided Instruction)

経営学部で開講している会計関連科目（簿記論、原価会計論、管理会計論等）では、コンピュータを活用したeラーニングシステムとして「会計CAI (Computer-Aided Instruction)」を導入している。横浜国立大学の会計学スタッフが1980年代から開発に着手し、現在では、Web化やコンテンツの充実が図られるようになっている。会計CAIは、学生の理解を促進するために講義に連動した形で導入され、学生の自宅での時間外学修を促すツールとして役立てられている。なお、会計CAIの一つのモジュールである簿記CAIは、簿記教育におけるeラーニングの先駆としての先見性と、教育効果が高く評価され、平成27 (2015) 年度日本簿記学会学会賞を受賞している。

企業トップなどの実務家や英語による特殊講義

「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」といった毎週代表取締役クラスの経営者を迎え、様々な角度から企業経営を学ぶ授業がある。これらの科目を修得した後は比較的長期にわたるインターンシップを行い、単位化することができる。経営学の諸領域にわたる特殊講義を提供することで、生きた経営学を学び、学生自身のキャリアビジョンを描けるよう支援している。



理工学部

Engineering Science

「名教自然」の精神

「名教自然」とは、無試験、無採点、無賞罰の「三無主義」に象徴される横浜高等工業学校（理工学部前身）の教育思想。優れた教育・研究は自然を尊ぶ、つまり学問は強制されずに、自らの意思で自発的に、自由に学ぶべきであり、自学自発の教育主義により、優れた人材を育成するという意味。今でもYNUの理工学系教育の精神として根付いている。



基盤教育では、学科を横断して学ぶ

各学科を横断した導入教育を強化し、円滑な大学教育への移行を図っている。各教育プログラム（EP）では、理工学部に適した基盤教育を重点的に提供している。

高い専門性と広い基礎教育

学部担当教員が、学科の枠を超え複数の教育プログラムに参画する主担当・副担当教員制度を導入しているため、EPの専門性に加えて、広い理工学基礎教育が充実している。

理工学部の最先端の研究に早期に参加できる

「ROUTE・iROUTE」プロジェクト

「ROUTE (Research Opportunities for Undergraduates)」は、通常4年生から研究室に配属となる中、やる気のある1～3年生が早い段階から研究室に入り先端研究に取り組むことができる「出る杭を伸ばす」プロジェクト。さらに、「iROUTE (「i」はinternationalの頭文字)」は、ROUTEに参加して研究成果を挙げてきた学生に対し、指導教員の海外共同研究先における研究を体験し、また海外有力大学から招へいた教授の集中講義に参加することで海外有力大学の講義を体験するなど、国際感覚を養うプログラムを用意する。第24回工学教育賞（文部科学大臣賞）受賞の注目プロジェクト。

副専攻プログラム

理工学部では、学生が履修する教育プログラム（主専攻プログラム）での学修に加え、広く他分野の科学技術に目を向ける進取的精神の涵養と、新たな知識の地平を切り拓きつつそこに内蔵される課題を掘り起こす能力を磨くため、ある専門領域の主題に沿って設計された学部内横断的な教育プログラム（理工学部副専攻プログラム）を学ぶことができる。この副専攻プログラムを履修するためには、4年次までに登録を行う必要がある。副専攻プログラムを学ぶ学生は、卒業要件である主専攻プログラムの科目履修（124単位）に加え、副専攻プログラムで指定された科目（標準は24単位）を履修する。指定科目を履修して所定の要件を満たした者には修了証が授与される。

都市科学部

Urban Sciences

都市科学の基本的な素養・リテラシー・技術を習得する「学部共通科目」

都市科学の素養やリテラシー・技術を確実に身に付けるため、都市科学部学生全員が1・2年次に学ぶ「学部共通科目」が充実している。学部共通科目は、「都市科学の基礎」および、「グローバル・ローカル」、「リスク共生」、「イノベーション」の3つの分野の関連科目で構成されている。

分野横断、文理融合の教育プログラム

分野横断、文理融合の学びを実質化するために、様々な仕組みを設けている。学部共通科目の「都市科学A・B・C」では文系・理系の複数の教員がオムニバス形式で講義を進め、「社会デザイン・フューチャーセッション」では、教員と学生による双方向の講義・演習を行う。また、所属と異なる学科が開講している科目を専門科目として修得できる。さらに、卒業研究においては、複数の分野の教員による指導を受けることができる。



横浜・神奈川地域をフィールドとして実践力を養う

多様な都市の課題を抱える最先進の国際都市「横浜・神奈川地域」の歴史や文化、都市づくりなどについて幅広く学ぶことができる都市科学部開講科目の「地域連携と都市再生A（ヨコハマ地域学）」、経済学部開講科目の「地域連携と都市再生B（かながわ地域学）」を履修することができるほか、各学科の演習科目、卒業研究でも、横浜・神奈川地域を積極的にフィールドとして取り組み、地域に関する情報やデータと実際の地域のフィールドワークと組み合わせて学ぶことで実践力を養う。



6つの大学院

YNUでは6つの大学院において、高度で専門的な教育・研究を行い、リーダーとして世界で活躍できる高度専門職業人を輩出することで社会の更なる発展に寄与しています。

大学院英語プログラム

YNUでは右記の英語プログラムを提供しています。また理工学府ではすべての講義は英語で提供されます。

修士プログラム

国際経済／国際基盤工学／国際基盤学 (IGSI) ／インフラストラクチャー管理学 (IMP)

博士プログラム

国際経済／日本の経営／トランスナショナル法政策／国際基盤工学

教育学研究科

Education

社会環境の急激な変化に伴い、学校教育をめぐる諸問題が複雑化・深刻化する中で、より高度で実践的な能力を備えた教員・研究者・専門家が求められている。教科別・ジャンル別の固定的な教育・研究の枠にとまらず、現代社会に即応できる、あるいは近未来を見据えた、新しいスタイルや内容による「教育デザイン」を実現できる人材を養成する。

国際社会科学府

International Social Sciences

国際社会で活躍する高度専門実務家・研究者を育成する社会科学の総合的大学院。経済学・経営学・法学の分野の高い専門性を身に付けるとともに、異なる社会経済環境に適応できる幅広い専門知識を有する人材を育成する。専攻横断的プログラムや英語によるプログラムを設け、専門性を活かした融合的・国際的な教育研究を行っている。

理工学府

Engineering Science

現代の超スマート社会において、工学の有り様が大きく変わってきている。また、国際的な競争の中で、日本の産業構造も変化を迫られている。このような背景のもと、主導的に、グローバルに、付加価値の高い製品を創出する「サイエンス型産業」を創造する人材を育成することを目的に、工学府は、2018年4月に理工学府に生まれ変わった。

環境情報学府

Environment and Information Sciences

環境と情報を基軸とした学際的な文理融合的視座を持ち、環境や社会に対する総合的な理解のもとで、人工環境、自然環境、情報環境に関する自らの専門的な知識と技能を活用して、安心・安全な持続可能社会を構築する上で必要な課題を自ら発見し、解決への道筋を生み出すことのできる人材を育成する。

都市イノベーション学府

Urban Innovation

大都市が抱える経済の停滞、高齢化や少子化などの社会問題、地球温暖化に代表される環境問題、中小規模都市の人口・都市活動の流出や都市自体の縮退、さらには新興国や開発途上国での急激な経済成長や産業構造変化に伴う社会基盤や生活基盤の諸課題を分析・掌握し、解決に向けての方策を提案できる専門知識を習得する。

先進実践学環

Innovative and Practical Studies

国際社会科学府、理工学府、環境情報学府、都市イノベーション学府の教育研究分野の融合を図るため、YNUの「環」として2021年に誕生。「社会を構成する人間の理解」と「先進的な数理・データサイエンスの技法」を身につけ、文理融合・異分野融合の視点を持つことで、新たな価値を創出し、Society 5.0の構築や普及を牽引する人材を養成する。

専攻 (コース)

修士課程

教育支援専攻

心理支援コース／日本語教育コース

専門職学位課程

高度教職実践専攻 (教職大学院)

学校マネジメントプログラム／教科教育・特別支援教育プログラム



博士課程前期・後期

経済学専攻

経営学専攻

国際経済法学専攻

博士課程前期

経営学専攻

社会人専修コース (横浜ビジネススクール)



博士課程前期・後期

機械・材料・海洋系工学専攻

機械工学教育分野／材料工学教育分野／海洋空間教育分野／航空宇宙工学教育分野 (前期のみ)

化学・生命系理工学専攻

化学教育分野／応用化学教育分野／エネルギー化学教育分野 (前期のみ)／化学応用・バイオ教育分野

数物・電子情報系理工学専攻

数学教育分野／物理学教育分野／応用物理教育分野／情報システム教育分野／電気電子ネットワーク教育分野



博士課程前期・後期

人工環境専攻

安全環境工学プログラム／環境学プログラム／社会環境プログラム

自然環境専攻

生態学プログラム／地球科学プログラム／環境学術プログラム

情報環境専攻

情報学プログラム／数理科学プログラム／情報学術プログラム



博士課程前期

建築都市文化専攻

建築都市文化コース／建築都市デザインコース (Y-GSA)／横浜都市文化コース (Y-GSC)

都市地域社会専攻

都市地域社会コース／国際基盤学コース (IGSI)／インフラストラクチャー管理学コース (IMP)

博士課程後期

都市イノベーション専攻



修士課程

研究テーマ

応用AI/社会データサイエンス/リスク共生学/国際ガバナンス/成熟社会/人間力創生/横浜アーバンリスト





- 1 横浜みなとみらい21
- 2 横浜マリンタワー
- 3 横浜中華街
- 4 横浜港大さん橋国際客船ターミナル
- 5 横浜ベイブリッジ
- 6 横浜赤レンガ倉庫

Yokohama Visitor's Guide
www.welcome.city.yokohama.jp

3 理想的な立地と環境

交通アクセス



30min

From Tokyo Station & Haneda Airport

大都市



2nd

Largest City in Japan

人口



3.7million

Population of

年間観光客



36million

Tourists / year

歴史



150years

Developed within

日本発祥の地



1st

City in Japan to Adopt Western Culture





緑豊かなキャンパス

すべての学部・大学院が集まっているYNUの常盤台キャンパスは、日本で最初の18ホールのゴルフ場である「程ヶ谷カントリー倶楽部」の跡地に建てられました。

横浜駅からわずか3kmしか離れていませんが、まるで公園のように緑が広がっています。勉強・研究に集中できるとともに、リラックスした学生生活が過ごせる理想的な環境です。



4 充実した施設と学生支援

YNUは、多様な学生が生き生きと学ぶことができる教育拠点になることを目指しています。
YNUでのキャンパスライフをイメージしてもらうため、ここでは、学生向け施設や、サービス・制度のうち、特徴的なものをいくつか紹介します。

01. 中央図書館

解放感のある快適な環境で、読書や学修をすることができます。約71万冊の蔵書と1200席の閲覧席がある他、ラーニング・commons、ワーキングスタジオ、メディアホール、カフェ等が設置されており、多機能スペースとしても利用されています。この他、学内には社会科学系研究図書館と理工学系研究図書館があります。



02. 学生センター

奨学金、授業料免除、寮、ビザの更新、課外活動、交換留学、就職活動などの相談や申請にワンストップサービスで対応しています。この他各種証明書の自動発行機や「なんでも相談室」を利用することもできます。



03. キャリアサポートルーム

YNUでは、就職ガイダンス、企業研究セミナー、面接対策講座、企業説明会などを行っています。キャリアサポートルームでは企業から送られてきた説明会情報や求人情報を掲示しているほか、OB・OG名簿検索、公務員関係資料・インターンシップ情報などを収集できます。また、個別の就職相談も行っています。就職・進学状況は25ページを参照してください。

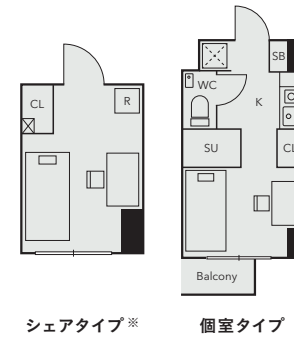


04. 4つの学生寮

YNUでは、4つの学生寮があり宿舎、合計部屋数600室以上を提供しています。寮費は月額10,740円～61,500円、入寮期間は1～2年です。経済支援の目的をもつ峰沢国際交流会館、留学生との共同生活を体験できる常盤台インターナショナルレジデンス、通学定期の範囲に横浜やみなとみらい地区が含まれる大岡インターナショナルレジデンスから、自分にあった寮を見つけてください。また、一部にバリアフリー室もあります。

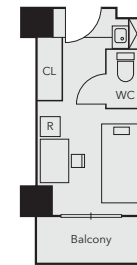
常盤台インターナショナルレジデンス

戸数・面積	112 / 8m ² (シェア) 166 / 16m ² (個室)
通学時間	キャンパス内
入居期間	2年以内 (更新可・最大標準修業年限まで)
入居一時金	¥50,000 (税別)
賃料 (月額)	¥32,500 (シェア) ¥43,500 (個室)
共益費 (月額)	¥6,000
水道光熱費 (月額)	¥12,000 (税別)



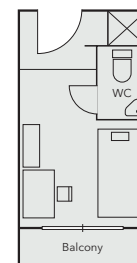
大岡インターナショナルレジデンス*

戸数・面積	252 / 12m ²
通学時間	徒歩・地下鉄 約40分
入居期間	2年以内 (更新可・最大標準修業年限まで)
入居一時金	¥50,000 (税別)
賃料 (月額)	¥33,000
共益費 (月額)	¥10,000



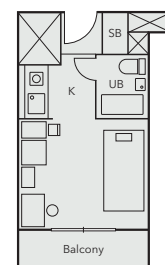
峰沢国際交流会館*

戸数・面積	110 / 12m ²
通学時間	徒歩5分
入居期間	2年 (留学生は1年) 以内
入居一時金	¥0
賃料 (月額)	¥5,700
共益費 (月額)	¥5,040



留学生会館 (留学生対象)

戸数・面積	128 / 16m ²
通学時間	徒歩・地下鉄 約40分
入居期間	1年以内
入居一時金	¥0
賃料 (月額)	¥5,900
共益費 (月額)	¥9,030



*キッチンとシャワーは共同。

05.

食堂と売店

YNUには大学生協運営の第1食堂（シェルスュ）、第2食堂（理工学部食堂）の2つの学生食堂があり、豊富なメニューを手頃な価格で提供しています。この他、カフェや大学生協、コンビニエンスストア、移動販売車でもランチや軽食を購入することができます。



06.

交換留学制度

YNUでは毎年約50名が世界各国の協定校へ交換留学生として留学しています。また、交換留学以外にも様々な短期の留学プログラムも用意しています。



10.

地域実践教育研究センター

全学の学部生を主対象とした副専攻プログラム「地域交流科目」などにより、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる21世紀型人材育成を体系的に行うとともに、内外の諸機関・諸地域と連携しながら教育・研究・実践活動を行い、広く情報を発信しています。

12.

アパート・マンション紹介

アパートなどの入居を希望する学生のため、「横浜国立大学生生活協同組合」が環境、通学距離等を考慮して、学生生活に適した下宿、アパート等を無料で紹介しています。「下宿、アパート情報」を必要とする方は、大学会館内の横浜国立大学生生活協同組合事務室に直接出向くか、横浜国立大学生生活協同組合の住まい紹介をご覧ください。

11.

105 & ISL （留学生サポートグループ）

YNUでは、大学公認の学生サポートグループ「105」や「International Student Lounge（通称：ISL）」などが、留学生の勉強（レポートの添削、テスト対策等）や学内の各種手続きのサポートを行うほか、ウェルカムパーティー、BBQ、インターナショナルフードパーティーなど、日本人と留学生の交流イベントを多数企画しています。



07.

保健管理センター

怪我や急病が発生した場合に応急処置を行い、必要に応じた医療機関への紹介を行うほか、精神科医やカウンセラーによる心の健康相談や、年に2回の定期健康診断、就職・進学・教育実習等に必要健康診断証明書の発行なども行っています。

08.

クラブ・サークル活動

大学生活を彩る一つの活動としてクラブ・サークル活動があります。YNUには、体育系サークルと文化系サークルがそれぞれ40団体以上あり、多くの学生が積極的に活動をしています。



13.

なんでも相談室

学生の皆さんが学生生活を送るうえで、困ったことや分からないことを気軽に相談できるところです。学業・健康・進路・友人のことや日常生活のさまざまな事柄について、担当スタッフや専門教員が相談にのり、一緒に解決策を考えます。もちろん、相談内容の秘密は厳守します。学生センター2階にあります。



14.

日本留学AWARDS

YNUは日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勤めたい進学先の一つとして、2015年から6年連続で「東日本地区国公立大学部門賞」に選出され、2017年から4年連続で大賞を受賞しています。また2017年から4年連続で「東日本地区大学院部門賞」にも選出され、2018年と2020年には大賞を受賞しました。

15.

障がい学生支援室

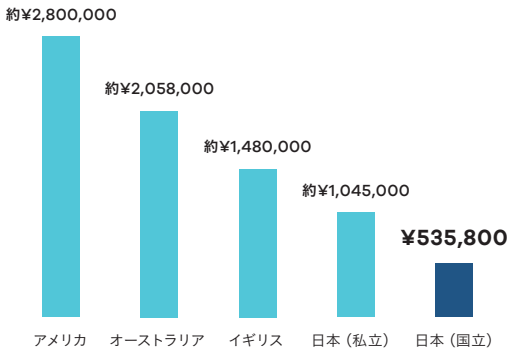
本学に在籍する障がいのある学生が障がいのない学生と同じように教育や研究に参加できるよう、学内の関係部署等と連携して、支援を行っています。修学に際してどのような困難があるかを伺いし、どのような支援が最適なのか、一緒に相談しながら決めていきます。

大学での学費と生活費

授業料

日本の国立大学の授業料は、欧米の大学や日本の私立大学と比較すると非常に経済的です。(海外の協定校への交換留学制度を利用すると、協定校へ授業料を払わずに留学することができます。)なお、国立大学の授業料は、学部・大学院、日本人・留学生、理系・文系に関わらず、原則すべて同額です。

※年間授業料の国際比較。算出は文部科学省「教育指標の国際比較」及び「トビタテ留学JAPAN」ウェブサイトに基づく。円換算は2018年3月末現在。



YNUでの初年度の学費

入学料

¥282,000

+

授業料
(年額)

¥535,800

=

合計

¥817,800

※文部科学省「平成30年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金 平均額(定員1人当たり)の調査結果について」によると、私立大学文科系学部の平均は¥1,166,922、私立大学理系学部の平均は ¥1,544,962。

高等教育の修学支援新制度

2020年4月から高等教育の修学支援新制度(入学料・授業料等減免および給付型奨学金の支給)が開始しました。本学は大学等における修学の支援に関する法律に基づき、文部科学省により一定の要件を満たすことの確認を受け、「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として認定されています。これに加え、入学前1年以内に学資を主として負担している者が死亡し、または本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合で、入学料の納入が著しく困難であると認められる者については、申請者の中から選考のうえ、入学料の全額または一部の額を免除する制度がありますので、該当する方はご相談ください。

奨学金

学業や人物が優れている学生が経済的理由により修学が困難であると認められる場合に学資の貸与等を行う制度です。YNUが取り扱う奨学金制度には、学内奨学金、日本学生支援機構、地方公共団体および民間育英団体奨学金などがあります。

12か月の生活費の目安

※「家賃」は大学近辺のワンルームおよび1Kの家賃相場の平均値。寮の場合は、¥128,880-¥738,000。「その他の生活費」は日本学生支援機構「平成28年度学生生活調査結果」に基づき算出。家賃・生活費はライフスタイルによって異なるため、上記の金額はあくまで目安。

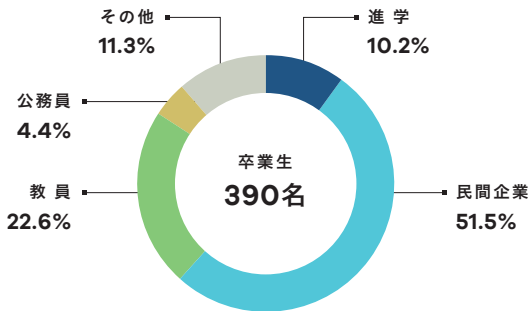


就職状況

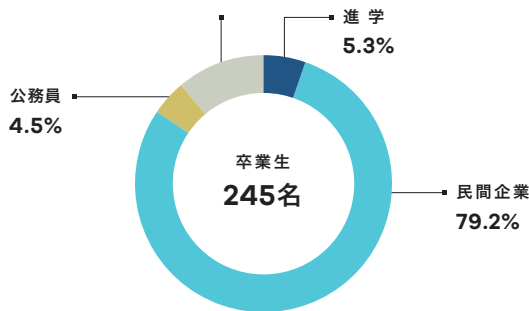
進路状況(2019年度卒業生)

偏りなく、幅広い業界・幅広い規模の企業に就職しているのが特徴です。日本有数の企業へ就職したり、日本最難関の大学院へ進学していることは、YNUが提供する教育の質が高いことを示しています。

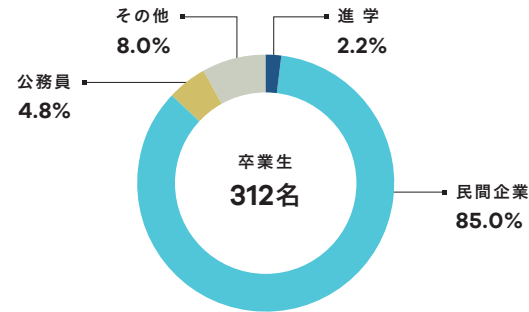
教育人間科学部



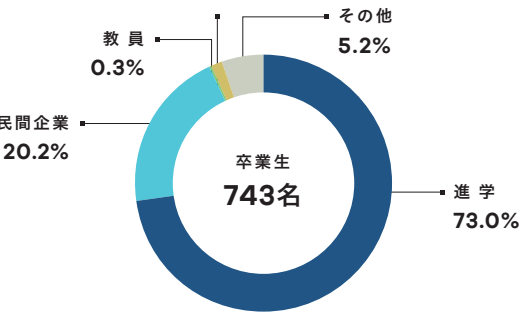
経済学部



経営学部



理工学部



※ 全学一体改組により2017年4月に教育人間科学部は教育学部に改組され、都市科学部が設置されました。

人事が見る大学イメージランキングで本学が2位にランクイン

YNUは、2020年に日本経済新聞社と就職・転職支援の日経HRが全上場企業と一部有力未上場企業の人事担当者に実施した、採用した学生から見た大学のイメージ調査で、総合ランキング2位(関東甲信越地域では1位)にランクインしました。

www.ynu.ac.jp/hus/koho/24095/

2019年度卒業生の進路

主な進路についての詳細はこちらをご覧ください。

 www.ynu.ac.jp/career/support/data/



● 教育人間科学部

教 員	公 立	横浜市、神奈川県、東京都、相模原市、厚木市、藤沢市、逗子市、小田原市、綾瀬市、静岡県、長野県、北海道、茨城県、愛媛県、大阪府、埼玉県、他
	私 立	青山学院横浜英和中学校、学校法人湘南学園、明星小学校、捜真女学校、平塚学園、鎌倉女子大学初等部、他
民間企業	各種メーカー	荏原製作所、エプソン、キーエンス、キリンホールディングス、ハウス食品、パンダイ、富士ゼロックス、富士通、三菱鉛筆、森永製菓、ライオン、他
	情報通信、放送	朝日新聞社、ウェザーニューズ、NTTドコモ、共同通信社、電通テック、東京海上日動システムズ、日本放送協会、日本ユニシス、毎日放送、楽天、他
	その他 (金融、卸、広告など)	SMBC信託銀行、第一生命、大和証券、東京海上日動火災保険、日本生命保険相互会社、野村證券、三井住友銀行、明治安田生命保険相互会社、伊藤忠丸紅鉄鋼、小田急百貨店、住友商事ケミカル、ゼビオホールディングス、ファミリーマート、良品計画、アクセンチュア、電通、みずほ総合研究所、他
公務員		神奈川県庁、横浜市役所、川崎市役所、大和市役所、平塚市役所、東京都庁、大田区役所、新宿区役所、港区役所、横浜家庭裁判所、他

● 経済学部

民間企業	情報通信、放送	ACCESS、NECソリューションイノベータ、エヌ・ティ・ティ・コムウェア、エヌ・ティ・ティ・データ、コーエーテクモホールディングス、時事通信社、ソフトバンク、日本アイ・ビー・エム、楽天、リクルート、他
	金融、保険、損保	あいおいニッセイ同和損害保険、SMBC信託銀行、かんぽ生命保険、ジェシービー、新生フィナンシャル、大和証券、東京海上日動火災保険、日本生命保険相互会社、農林中央金庫、野村證券、みずほフィナンシャルグループ、三井住友カード、三井住友銀行、三菱UFJ国際投信、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、横浜銀行、リソナ銀行、他
	各種メーカー	エバラ食品工業、大塚製薬、川崎重工業、キーエンス、キャノン、京セラ、JFEスチール、住友化学、DNPファインケミカル、日産自動車、日本電気、パナソニック、富士通、富士フィルム、ブリヂストン、三菱電機、他
	その他 (建設、鉄道、輸送など)	アクセンチュア、大林組、鹿島建設、京王エージェンシー、京急電鉄、サイバーエージェント、四国電力、住友倉庫、住友林業、大和ハウス工業、成田国際空港、日本能率協会コンサルティング、三菱地所レジデンス、星野リゾート、LIXIL住宅研究所、他
公務員		大田区役所、神奈川県庁、会計検査院、関東財務局、厚生労働省、国土交通省東京航空局、東京国税局、東京都庁、広島出入国在留管理局

● 経営学部

民間企業	情報通信、放送	インテージ、SCSK、エヌ・ティ・ティ・データ、NTTドコモ、オービック、ソフトバンク、テレビ新潟放送網、日本アイ・ビー・エム、野村総合研究所、東日本電信電話、フジテレビジョン、マクロミル、宮崎放送、レバレッジズ、他
	金融、保険、損保	イオンクレジットサービス、大和証券、東京海上日動火災保険、日本政策金融公庫、日本生命保険相互会社、三井住友海上火災保険、三井住友銀行、三井住友DSアセットマネジメント、三菱UFJ信託銀行、横浜銀行、他
	法務、コンサルティング	アクセンチュア、アビームコンサルティング、EY新日本有限責任監査法人、デロイトトーマツコンサルティング、電通、有限会社あずさ監査法人、有限責任監査法人トーマツ、他
	各種メーカー	IHI、大塚製薬、花王、小糸製作所、富士通、サントリーホールディング、富士通、本田技研工業、クボタ、資生堂、ダイキン工業、TOTO、ライオン
公務員	その他 (建設、輸送など)	大成建設、大和ハウス工業、日本通運、日本貨物鉄道、サイバーエージェント、パーソナルキャリア
		横浜市役所、川崎市役所、関東信越国税局、関東農政局、農林水産省、東京都庁、荒川区役所、大田区役所、世田谷区役所、他

● 理工学部

進 学		横浜国立大学大学院 (理工学府・環境情報学府)、東北大学大学院、東京大学大学院、東京工業大学大学院、名古屋大学大学院、京都大学大学院、デルフト工科大学、ソウル大学大学院、他
民間企業	情報通信、放送	アウトソーシングテクノロジー、NTTデータNJK、九州朝日放送、クラウドワークス、KDDI、ソフトバンク、テレビ東京、ドコモ・システムズ、日本総合研究所、日本電営、日立ソリューションズ、富士ソフト、楽天、ラック、他
	建設業、プラント、電気、ガス	大林組、鹿島建設、清水建設、積水ハウス、中部電力、東京ガス、東芝プラントシステム、日揮、三菱重工交通・建設エンジニアリング、他
	各種メーカー	IHI、LG化学、川崎重工業、キャノン、京セラ、サントリーホールディングス、スズキ、日産自動車、日本電産エレシス、日立金属、富士通、本田技研工業、ポーラ、三井E&S造船、三菱電機エンジニアリング、YKK、他
	その他 (金融、コンサルティングなど)	アクセンチュア、伊藤忠ケミカルフロンティア、兼松、住友生命保険相互会社、双日、ソニー生命保険、大和総研ホールディング、デロイトトーマツコンサルティング、東京急行電鉄、日本航空、PwCコンサルティング、富士通総研、丸紅、三井住友信託銀行、三井不動産、明治安田生命保険相互会社、横浜銀行、他
公務員		神奈川県庁、横浜市役所、横浜税関、経済産業省、国土交通省、国土交通省関東地方整備局、特許庁、群馬県庁、山梨県庁

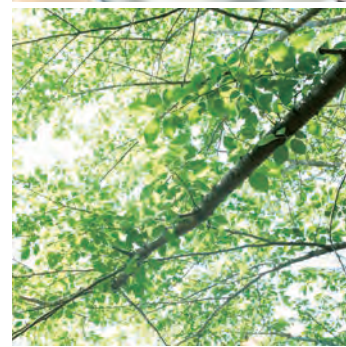
Why Study at YNU?

YNU横浜国立大学に興味をもっていただき
ありがとうございます。

この冊子は、大学進学を検討しているみなさんに、
YNUで学ぶことの魅力を伝えたいと思い作りました。

YNUの教育や研究、キャンパスライフ、
そして費用や将来のキャリアパスについて知り、
学生生活のイメージを膨らませることができたでしょうか。

この冊子を読んで、少しでも多くの方々に
「YNUで学びたい!」と思っていただければ嬉しく思います。



YNU Initiative for Global Arts & Sciences
横浜国立大学

入試課

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-8
Tel: 045-339-3121 Fax: 045-339-3129
E-mail: nyushi1@ynu.ac.jp

 www.ynu.ac.jp



もっと詳しい情報を知りたい方は、
Webサイトをご覧ください。

 www.whystudyat.ynu.ac.jp/admissions/



YNU